

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年12月15日
【四半期会計期間】	第58期第1四半期（自 2023年8月1日 至 2023年10月31日）
【会社名】	株式会社大盛工業
【英訳名】	OHMORI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 栗城 幹雄
【本店の所在の場所】	東京都千代田区神田多町二丁目1番地
【電話番号】	東京03(6262)9877(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 及川 光広
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田多町二丁目1番地
【電話番号】	東京03(6262)9877(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 及川 光広
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期 第1四半期連結 累計期間	第58期 第1四半期連結 累計期間	第57期
会計期間	自2022年 8月1日 至2022年 10月31日	自2023年 8月1日 至2023年 10月31日	自2022年 8月1日 至2023年 7月31日
売上高 (千円)	1,275,052	1,311,136	6,054,025
経常利益 (千円)	129,531	198,010	433,492
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	99,782	121,285	293,239
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	99,782	121,285	293,239
純資産額 (千円)	4,510,250	5,196,075	5,144,737
総資産額 (千円)	9,599,852	11,489,226	11,406,497
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	6.67	6.84	19.04
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	6.44	6.66	18.33
自己資本比率 (%)	46.1	44.5	44.4

(注) 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、詳細は、「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表[注記事項](セグメントの情報等)」に記載のとおりです。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があること認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴うインバウンド需要の回復並びに個人消費及び設備投資の持ち直し等により回復基調にあるものの、エネルギー、原材料価格の高止まり、世界経済の減速、急激な為替変動などにより、依然として先行きの不透明な状況が続いております。

国内建設市場におきましては、国土強靱化推進のための公共建設投資は底堅く推移しており、東京都の上・下水道設備の建設につきましても、老朽管及び施設の更新工事並びに耐震化、浸水対策工事等の発注が継続して行われております一方、受注競争の熾烈化が増す状況並びに建設資材価格、労務費等の建設コストの上昇により、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、建設事業におきましては、完成工事総利益向上に向け、工事コストの低減及び施工管理の徹底に一層努めるとともに、事業基盤の拡大及び受注量増加に向け、主力事業である上・下水道工事のほか、河川工事、道路改良工事等の獲得にも積極的に取り組んでまいりました。

不動産事業におきましては、賃貸物件の入居率向上に向けた営業活動の強化を図るほか、保有不動産物件の販売を進めるとともに、収益性の高い新規物件の取得に注力してまいりました。

OLY事業におきましては、東北・関東圏における受注・売上増加を目指した営業活動を継続するとともに、関東圏以南エリアにおける利便性及びサービスの向上並びに受注増加を目指し開設いたしました、名古屋OLY営業所における営業活動に注力してまいりました。

通信関連事業におきましては、売上高及び売上総利益の増加を目指し、電気通信所内設備の保守運用業務及び開通工事業務の受注増加に向けた活動を継続してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,311,136千円（前年同期比2.8%増）、営業利益は204,310千円（前年同期比53.4%増）、経常利益は198,010千円（前年同期比52.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は121,285千円（前年同期比21.6%増）となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりです。なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、詳細は、「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 [注記事項] (セグメント情報等)」に記載のとおりです。また、以下の前年同四半期比較につきましては、前年同四半期の数値を変更後の区分に組み替えた数値で比較しております。

#### (建設事業)

建設事業におきましては、受注高240,079千円（前年同期比40.0%減）、売上高949,090千円（前年同期比3.9%増）、セグメント利益（営業利益）143,496千円（前年同期比97.6%増）となりました。

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、不動産物件の賃貸収入、クローゼットレンタル事業により、売上高99,696千円（前年同期比16.9%増）、セグメント利益（営業利益）25,640千円（前年同期比34.9%増）となりました。

#### (OLY事業)

OLY事業におきましては、OLY機材のリース販売等により売上高172,562千円（前年同期比17.0%減）、セグメント利益（営業利益）22,294千円（前年同期比35.0%減）となりました。

#### (通信関連事業)

通信関連事業におきましては、NTT局内の通信回線の保守・管理業務等により、売上高94,198千円（前年同期比22.7%増）、セグメント利益（営業利益）12,879千円（前年同期比77.0%増）となりました。

## 財政状態の状況

### 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産の残高は、11,489,226千円となり、前連結会計年度末に比べ82,729千円増加いたしました。主な理由は、現金及び預金の増加938,592千円、受取手形・完成工事未収入金等の減少759,053千円、未成工事支出金の減少44,052千円、不動産事業等支出金の減少5,197千円、販売用不動産の減少10,008千円、のれんの減少7,359千円、繰延税金資産の減少11,362千円によるものであります。

#### (負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債の残高は、6,293,150千円となり、前連結会計年度末に比べ31,391千円増加いたしました。主な理由は、工事未払金の減少41,812千円、短期借入金の増加293,605千円、未払金の増加25,253千円、未成工事受入金の減少257,007千円、流動負債その他に含まれる預り金の増加104,857千円、長期借入金の減少85,093千円によるものであります。

#### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、5,196,075千円となり、前連結会計年度末に比べ51,338千円増加いたしました。主な理由は、資本金の増加34,792千円、資本剰余金の増加34,792千円、利益剰余金の減少17,848千円によるものであります。

#### (2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

#### (3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

#### (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めておりますが、当第1四半期連結累計期間において、重要な変更はありません。

#### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
A種優先株式	277,500
B種優先株式	277,500
計	50,555,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年10月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年12月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,922,849	17,922,849	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	17,922,849	17,922,849	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2023年12月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により、発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数(株)		資本金(千円)		資本準備金(千円)	
	増減数	残高	増減額	残高	増減額	残高
2023年8月1日～ 2023年10月31日(注)	400,000	17,922,849	34,792	3,036,057	34,792	437,739

(注)当該期中の変動は、新株予約権の行使によるものであります。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年7月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 17,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,358,300	173,583	-
単元未満株式	普通株式 147,049	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	17,522,849	-	-
総株主の議決権	-	173,583	-

(注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式65株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が500株、議決権の数には同機構名義の5個が含まれております。

【自己株式等】

2023年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)大盛工業	東京都千代田区神田多町二丁目1番地	17,500	-	17,500	0.10
計	-	17,500	-	17,500	0.10

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の自己株式数は、17,635株となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準拠して記載しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,398,166	3,336,758
受取手形・完成工事未収入金等	2,648,210	1,889,156
未成工事支出金	127,145	83,093
不動産事業等支出金	21,610	16,412
販売用不動産	5,115,026	5,105,018
貯蔵品	30	27
その他	85,777	75,476
貸倒引当金	649	1,137
流動資産合計	10,395,316	10,504,805
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	146,534	144,316
機械・運搬具(純額)	95,403	93,021
土地	472,244	472,244
有形固定資産合計	714,182	709,583
無形固定資産		
のれん	37,502	30,143
その他	1,444	1,344
無形固定資産合計	38,947	31,487
投資その他の資産		
長期貸付金	3,163	2,492
退職給付に係る資産	65,851	66,166
保険積立金	8,000	8,000
繰延税金資産	43,152	31,790
その他	179,047	175,917
貸倒引当金	41,164	41,015
投資その他の資産合計	258,050	243,350
固定資産合計	1,011,180	984,421
資産合計	11,406,497	11,489,226



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
工事未払金	380,591	338,778
短期借入金	346,593	640,199
未払金	28,882	54,135
未払法人税等	73,524	71,753
未成工事受入金	1,070,344	813,336
賞与引当金	108,166	88,786
役員賞与引当金	19,411	-
工事損失引当金	-	14,500
完成工事補償引当金	17,528	23,368
その他	149,383	263,370
流動負債合計	2,194,426	2,308,229
固定負債		
長期借入金	4,008,946	3,923,852
役員退職慰労引当金	13,770	14,925
資産除去債務	13,766	13,766
その他	30,850	32,377
固定負債合計	4,067,333	3,984,920
負債合計	6,261,759	6,293,150
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,001,265	3,036,057
資本剰余金	939,423	974,215
利益剰余金	1,178,883	1,161,035
自己株式	54,216	54,230
株主資本合計	5,065,355	5,117,078
新株予約権	79,381	78,997
純資産合計	5,144,737	5,196,075
負債純資産合計	11,406,497	11,489,226

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
<b>売上高</b>		
完成工事高	913,319	949,090
不動産事業売上高	85,297	99,696
OLY事業売上高	199,666	168,150
通信関連売上高	76,769	94,198
売上高合計	1,275,052	1,311,136
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	746,711	709,872
不動産事業売上原価	57,086	63,390
OLY事業売上原価	155,167	134,409
通信関連売上原価	60,442	71,179
売上原価合計	1,019,408	978,851
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	166,607	239,218
不動産事業総利益	28,210	36,306
OLY事業総利益	44,498	33,741
通信関連総利益	16,326	23,018
売上総利益合計	255,643	332,284
<b>販売費及び一般管理費</b>	122,479	127,974
営業利益	133,163	204,310
<b>営業外収益</b>		
受取利息	299	65
未払配当金除斥益	1,123	1,344
その他	1,398	883
営業外収益合計	2,820	2,293
<b>営業外費用</b>		
支払利息	6,393	8,308
貸倒引当金繰入額	30	284
その他	30	-
営業外費用合計	6,453	8,593
<b>経常利益</b>	129,531	198,010
税金等調整前四半期純利益	129,531	198,010
法人税、住民税及び事業税	25,467	65,018
法人税等調整額	4,281	11,705
法人税等合計	29,749	76,724
四半期純利益	99,782	121,285
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	99,782	121,285
四半期包括利益	99,782	121,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	99,782	121,285

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約及びコミットメントライン契約

当社グループにおいては、運転資金の効率的な調達を行うため取引金融機関と当座貸越契約（5行）及びコミットメントライン契約（1行）を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
当座貸越限度額及び コミットメントライン契約の総額	2,250,000千円	2,250,000千円
借入実行残高	-	300,000
差引額	2,250,000	1,950,000

財務制限条項

コミットメントライン契約は2019年12月に当社が契約を締結しており、この契約には次の財務制限条項が付されております。

(借入枠 1,000,000千円 借入実行額 300,000千円)

各事業年度の決算期の末日における単体の貸借対照表の純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日または2019年7月に終了した決算期の末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%の金額以上に維持すること。

2020年7月期以降の各事業年度の決算期の末日における単体の損益計算書の経常損益について、2期連続で経常損失を計上しないこと。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
減価償却費	39,086	41,920
のれんの償却額	7,359	7,359

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当原資
2022年10月26日 定時株主総会	普通株式	74,780	5	2022年7月31日	2022年10月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当原資
2023年10月25日 定時株主総会	普通株式	140,042	8	2023年7月31日	2023年10月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)2
	建設事業	不動産事業	O L Y事業	通信関連事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	913,319	85,297	199,666	76,769	1,275,052	-	1,275,052
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	8,221	-	8,221	8,221	-
計	913,319	85,297	207,887	76,769	1,283,273	8,221	1,275,052
セグメント利 益	72,605	19,001	34,280	7,275	133,163	-	133,163

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

売上高の調整額 8,221千円は、セグメント間取引消去 8,221千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)2
	建設事業	不動産事業	OLY事業	通信関連事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	949,090	99,696	168,150	94,198	1,311,136	-	1,311,136
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	4,411	-	4,411	4,411	-
計	949,090	99,696	172,562	94,198	1,315,548	4,411	1,311,136
セグメント利 益	143,496	25,640	22,294	12,879	204,310	-	204,310

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

売上高の調整額 4,411千円は、セグメント間取引消去 4,411千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間の期首より、従来「不動産事業等」に含めていたOLYリース事業を量的な重要性が増したため、「OLY事業」として独立のセグメントに変更いたしました。

また、「その他」として報告しておりましたクローゼットレンタル事業につきましては、金額的な影響が軽微なことから、「不動産事業」に含めることといたしました。

これに伴い、報告セグメントを従来の「建設事業」、「不動産事業等」、「通信関連事業」の3区分から、「建設事業」、「不動産事業」、「OLY事業」、「通信関連事業」の4区分に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自2022年8月1日至2022年10月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	建設事業	不動産事業	O L Y事業	通信関連事業	
官公庁	841,775	-	-	-	841,775
民間	71,543	2,673	75,362	76,769	226,348
顧客との契約から生じる収益	913,319	2,673	75,362	76,769	1,068,124
その他の収益(注)	-	82,624	124,304	-	206,928
外部顧客への売上高	913,319	85,297	199,666	76,769	1,275,052

(注)「その他の収益」は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる賃貸料収入であります。

当第1四半期連結累計期間(自2023年8月1日至2023年10月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	建設事業	不動産事業	O L Y事業	通信関連事業	
官公庁	896,316	-	-	-	896,316
民間	52,773	1,665	44,268	94,198	192,906
顧客との契約から生じる収益	949,090	1,665	44,268	94,198	1,089,223
その他の収益(注)1	-	98,030	123,882	-	221,913
外部顧客への売上高	949,090	99,696	168,150	94,198	1,311,136

(注)1.「その他の収益」は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる賃貸料収入であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間の期首より報告セグメントの区分を変更しており、詳細は、「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 [注記事項] (セグメント情報等)」に記載のとおりです。

なお、前第1四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	6円67銭	6円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	99,782	121,285
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	99,782	121,285
普通株式の期中平均株式数(株)	14,955,991	17,723,727
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	6円44銭	6円66銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	543,081	476,842
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年12月15日

株式会社大盛工業  
取締役会 御中

監査法人 アヴァンティア  
東京都千代田区

指定社員 公認会計士 加藤 大 佑  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 染 葉 真 史  
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社大盛工業の2023年8月1日から2024年7月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社大盛工業及び連結子会社の2023年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められて

いる。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は、当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。